

流行り謡にみる現代中国社会の歪み（Ⅱ）

岡 益 巳

3. 4 政府機関の腐敗と組織ぐるみの悪行

最高人民検察院の張思卿検察長は、1993年10月末の全人代常務委員会議で次のような報告を行った（宇野[1994]p.179）。同年1～9月全国検察機関が摘発した横領、取賄、公金流用などの経済犯罪事件は4万余件で、それらの事件にかかわっていた党・政府機関の職員は5,040人に上り、また捜査中に犯罪を犯した司法要員は1,163人に上った。

党・政府機関幹部の特権を利用した汚職、さらに司法機関や行政執行機関の職員の汚職もひどく、役所ぐるみの悪行も目に余る。

(38)公检法商賄路好,

谁想告咱也白闹。 [J-93-10/J-93-11]

（警察、検察、裁判所に工商管理局には賄賂をタツプリ、
誰が俺様を告訴しようと無駄なこと。）

通常“公检法”と呼ばれ、“公安、検察、法律机关”（公安、検察、法律機関）の略称であり、各級の公安、人民検察院、人民法院を指す。“商”は、ここでは“工商管理局”の略称である。蛇足ながら、中国語の“警察”は専ら人、すなわち警察官を意味し、組織としての警察は“公安”である。

(39)公检法是流氓,

工商税务两条狼,
乡政府是土霸王。 [J-93-10]

（警察、検察、裁判所はごろつきで、
工商管理局、税務署は二匹の狼、
村役場は地元の大王様よ。）

“个体户”（自営業者）の間で流行っている謡には、次のようなものがある。

- (40) 一税轻，二费重，
 三捐四罚无底洞。 [J-93-6]
 (国税は軽いが，その他の税は重く，
 拋出金や罰金は底無しだ。)

自営業者に対する諸税・拋出金の類は多岐に渡っており，日常的な工商管理費の他に，消毒費、蠅撲滅費、衛生費、緑化費、道路使用費、暫定居住費、治安防犯費、検疫費など，地方政府機関の各々の部門がありとあらゆる名目をつけて，勝手に取り立てる。その額は少ないもので月一～二元，多いもので月百元程度である(王・王[1993]p.34)。もし，支払を拒否するなどして逆らえば，法外な罰金が課せられる。なお，農民も同様に，郷村の各政府部門などから搾取されており，この謡とそっくりのものが農民の間で流行っている。次節の(52)の謡を参照されたい。

個人や法人は，たとえ政府機関から不当な仕打ちを受けようとも，裁判所へ訴えたりするのは得策ではない。その理由としては，第一に，司法が行政から独立していないため，裁判所は政府機関に不利な判決を出せない。第二に，裁判所そのものの腐敗・墮落がひどく，公正な裁判が望めない。

- (41) 饿死莫作贼，气死莫告状。 [J-93-11]
 (餓死するとも悪事を働くな，憤死しようとも訴訟を起こすな。)
 (42) 行政诉讼难，难于上青天。 [J-93-11]
 (行政訴訟は難しい，天に昇るより難しい。)
 (43) 赢了这一次，败了一辈子。 [J-93-11]
 (今回勝っても，一生みじめ。)

従って，泣き寝入りをするか，賄賂を贈って手加減してもらおうのが現実的な問題解決策である。

政府機関も裁判所などなんとも思っていない。

- (44) 我是特警，人称土匪；
 我是城管，人称地痞；
 县委政府支持我，你们法院算老几？ [J-93-11]
 (俺様は特別警察，人は土匪と呼ぶ；
 俺様は都市管理隊，人はごろつきと呼ぶが；
 県当局は俺様の味方，お前ら裁判所など屁でもない。)

“特警”は“特种警察”(特別警察)で，テロ活動，暴動，特殊な事件を専門に扱う。“城管”は“城市管理”の略称で，ここではその隊員を意味しているが，以前は“清洁队”(清掃隊)と呼ばれていた組織がこのように改称された。衛生管理費等の名目で露店などから金を取り立てたりする

ため、トラブルが頻発している。

裁判官の腐敗ぶりは、すでに紹介した(8-a)の中でも“吃了原告吃被告”と謡われているほどであるが、もう三例取り上げてみよう。

(45)大盖帽，两头翘，吃了原告吃被告，
兜里揣着避孕套。 [J-93-10/J-93-11]

(裁判官の帽子，前と後ろがピンと跳ね，原告や被告を食物に，
ポケットにはコンドームを隠し持つ。)

(46)大盖帽，两头翘，哪里有酒哪里到；
吃了喝了不算完，还说法制不健全。 [J-93-11]

(裁判官の帽子，前と後ろがピンと跳ね，
酒があればどこでも行くが；
飲み食いだけでは飽きたらず，
おっしゃることには法制が不健全。)

(47)法院办案搞承包，办案经费找原告；
一件案子分十个，为叫原告掏腰包。 [J-93-11]

(裁判所は事件の処理を請負で，経費は原告に負担さす；
一つの案件を十に分けるのは，原告に金を出さすため。)

原告や被告の接待を受けたり，不当に金品を要求したり，女性の原告や被告に対しては関係を迫ったり，全くその腐敗ぶりは甚だしい。“大盖帽”は司法関係者の制帽を指している。なお，中国には日本の司法試験に相当するような制度がなく，裁判官は必ずしも法律の専門家であるとは言い難い。退役軍人がその任に当たることも多いとか。

警察の横暴もかなりのもので，“警匪一家”（警官と土匪は同類）などと言いつてられているほどである。次の謡は警官の暴行のひどさを伝えてくれる。

(48)派出所，鬼门关；
十人进，五人残。 [J-93-10]

(派出所は地獄の一丁目；十人入れれば，五人は障害者に。)

また，公然と賄賂を要求する警官が多いことを示す謡もある。

(49)公安抓嫖又抓赌，讨价还价不怕丑；
不要收据罚一百，若要收据二百五。 [J-93-10]

(警察は売春や賭博を取り締まるが，臆面もなく罰金額を交渉し，
受取書なしなら百元で，受取書が要るなら二百五十元。)

もちろん，受取書を発行せずに徴収した罰金は警官の懐に入るわけだが，払う側にしてみれば，罰金が少なくすむため，交渉の余地があるという

ことだ。

結局、一般大衆からみれば、役人なんぞは皆悪い奴なのである。しかも、役人の横暴ぶりは益々ひどくなるばかりである。

(50) 烏紗帽，日日抢，
谁是谁非不用讲， [J-93-10]

(お役人は、毎日略奪繰り返す、
どいつもこいつも皆悪い。)

(51) 乌龟王八下台去，毒蛇猛兽上台来。 [J-93-11]
(ダメな役人辞めていきゃ、えげつない役人現れる。)

3. 5 農民の不满－底辺からの怨み節

1992年における農村人口は全体の72.4%を占める。二億人にも上る農村余剰労働力は“盲流”と称せられる無秩序な流動人口の原因ともなっている。現代化の波に乗り、豊かになった農村はごく一部に過ぎず、大半は貧しい。

1993年春、就任したばかりの肖秧・四川省長は一カ月間農村を巡回の後、「視察で最も私の記憶に残ったのは『貧』の一字に尽きる。」と、幹部に語った(1994年10月5日付『朝日新聞』)。内陸部の農山村を中心に、食事や衣食に事欠く「貧困層」は八千万人にも及び、貴州省では省人口の三分の一に当たる一千万人が貧困下にある(1994年10月28日付『朝日新聞』)。こうした現状に加えて、農村の基層幹部の農民搾取は目に余る。

(52) 头税轻，二税重，集资摊派是个无底洞。 [J-93-10]

(国税は軽いが、地方税は重く、拠出金・割当金は底無しだ。)

政府のあらゆる部門が寄って集って農民を食物にしている状況を語ったものは次の通りである。

(53) 四只金钱豹，十三顶大盖帽，
都来吃一顶破草帽。 [Z-94-3/J-93-10]

(四匹の豹，十三個の制帽，
そろって破れた麦わら帽子一個を食いに来る。)

“四只金钱豹”は工商管理局，税務署，銀行，財政部門を指し，“十三顶大盖帽”は警察，武装警察(“武警”)など⁽¹²⁾，法の執行部門全てを指す。“破草帽”は貧しい農民を意味する。

(54) 你集我集他集农民急，
你筹我筹他筹农民愁。 [J-93-10]

(あんたが集め，俺が集め，あいつが集め，農民は気が気じゃない，

あんたが取り，俺が取り，あいつが取り，農民は嘆く。）

この謡は，“集”と“急”が同音であり，“筹”と“愁”も同音で，たいそう語呂がよい。“集”と“筹”は共に「集める・取り立てる」という意味。

(55-a) 民不能跟官斗，
官不怕你穷，
鬼不怕你瘦，
瘦的也要榨出你三斤油。 [J-93-10]

(民衆はお役人に勝てっこない，
役人はお前がどんなに貧しかろうと気にしない，
妖怪はお前がどんなに痩せていようと気にしない，
痩せていようとお前から三斤の油を絞取る。)

この謡には，次のようなヴァージョンもある。

(55-b) 民不同官斗，
官不怕你穷，
鬼不怕你瘦，
瘦的也要捋你三斤油。 [Z-94-3]

(民衆はお役人とは争わぬ，
役人はお前がどんなに貧しかろうと気にしない，
妖怪はお前がどんなに痩せていようと気にしない，
痩せていようとお前から三斤の油をしごき取る。)

農民に課せられる税金や分担金の類は増加する一方であり，現在，地方政府の20余りの部門がそれぞれ農民に手を伸ばし，その徴収項目は180余りにも上る（華[1993]p.50）。

次の謡はもっと露骨に幹部を批判している。

(56) 催粮催款催性命，
防火防盗防干部。 [J-93-10]
(穀物を取り立て，金を取り立て，命を取り立てる，
火の用心，泥棒用心，幹部に用心。)

“催性命”とは，幹部が農民に“计划生育”（計画出産＝一人っ子政策）を強要している様子を謡っている。

(57) 盗贼暗中偷，干部明里拿；
盗贼可以抓，干部不能骂。 [Z-94-3/J-93-10]

(盗賊はこっそり盗むが，幹部はおおびらに取る；
盗賊は捕まえられるが，幹部は罵ることもできない。)

農村の基層幹部のみならず、上層から視察などの名目でやって来る幹部もひどい。滞在中の経費は全て公務にかかわるものとして処理され、しかも引き上げる際には手土産をどっさり持って行く。もちろん、そのツケを支払うのは貧しい農民たちである。

(58) 下来的时候像工作的样子，

进进出出像个贵宾的样子，

吃饭像个过年的样子，

走时像个打猎的样子。 [J-92-11]

(やって来た時は仕事するようになかっこう、

出入りする様は貴賓のようで、

食事の様は年越しのようで、

帰る時は狩りの如く獲物がいっぱい。)

(59) 领导下基层，上边到下边，

坐的「工作」车，吃的「工作」饭，

喝的「工作」酒，抽的「工作」烟。

「工作」刚开始，食宿不掏钱，

「工作」将结束，满载土特产。

一切为「工作」，理得心也宽，

一心为「工作」，上下转圈圈。 [J-92-2]

(お偉いさんがやって来る、お偉いさんがやって来る、

乗るのは「仕事」の車、食うのは「仕事」の飯、

飲むのは「仕事」の酒、吸うのは「仕事」のタバコ。

「仕事」が始まりゃ、飯も宿も金要らず、

「仕事」が終わるころにゃ、お土産満載。

全てが「仕事」のためであり、お偉いさん当然心もゆったりし、

一途に「仕事」のためと思い、おんなじことを繰り返す。)

もちろん、“基层”は農村ばかりでなく、国営の企業、鉱山、商店或いは政府の出先機関といった末端の組織を指す言葉であり、そのいずれも上級組織からやってきた幹部の「狩場」となっている。

(60) 干部下乡五子登科：

拿谷子，赶猪子，扒房子，铐铐子，坐牢子。 [J-93-10]

(幹部が村に来りゃ五つの出来事が発生：

穀物奪い、豚を取り上げ、家捜しし、

手錠をかけて、牢にぶち込む。)

“五子登科”（五人の男子が科挙の試験に合格する）の“五子”は、謡の

中に出てくる五つの“～子”を、“登科”はそのような事態が発生することを、比喩的に示している。

1994年6月に中国共産党中央社会治安綜合治理委員会が發布した文書『目下の農村社会不安定要素と治安問題』によると、中国国内の農村地域の政治や治安は危険な状態にまで悪化しており、1993年には6,230件余りの暴動が、1994年1月から4月には2,300件余りの暴動が発生し、各々、8,200人余り、5,000人余りの死傷者を出した（陸[1994]pp.28-29）。当該報告書によると、目下の農村の主要問題は次の六点である。①全国の郷・村の党組織の60%がマヒ或いは半マヒ状態、30%の党組織が変質。②党の農村政策の相当部分が実施されず、現場の政策が取って代わっている。③郷・村幹部の汚職・腐敗、非法な徴税項目・分担金が目白押しのため、農民が土地を売ったり、耕作を放棄したりしている。④大部分の農村地区と都市との生活格差が拡大の一途を辿っている。三億五千万人の農民は貧困線にあり、二億人の余剰労働力を抱えている。⑤農村水利事業の立ち後れ、耕作地の不法占有、肥料・農薬・農業機械価格の上昇。⑥（農村の幹部が）農民の食糧・綿花・植物油・豚・牛などの買い上げ価格を人為的に低く抑さえ、空手形を渡したり、買い上げ代金を物で支払ったりするため、農民の強い反発を招いている。

ちなみに、1992年末の時点で、全国の九つの省で92億元の空手形（“白条子”）が発行された（申[1993]p.26）。これに加えて、貧しい出稼ぎ農民が故郷へ郵便為替で送金した金が、末端の郵便局の資金不足が原因で、“绿条”（郵便貯金預かり書）に化けてしまい、現金化できない事態が各地で発生し、農民の不満を煽っている。四川省万県の郵便局では、こうした預かり書が19万6千通、5,200万元にも達したという（華[1993]p.51）。

4. 党中央への批判

4. 1 開放政策への批判

開放路線の下での現在の暮らしよりも、以前の方がよかったとする流行り謡には次のものがある。

(61) 旧社会不算苦，

六十年代真正苦，

八十年代更加苦。 [J-88-8]

（旧社会はたいして苦しくはなかったが、

六十年代は本当に苦しかった。
八十年代はさらに苦しくなってきた。）

また、所詮現代化は資本主義の復活であり、何のための革命であったのか、と訴える謡もある。

(62-a) 辛辛苦苦几十年，一朝回到解放前；
既然回到解放前，当年革命又为谁？ [Z-94-3]
（骨身削って数十年，一朝にして解放前に逆戻り；
解放前に戻るとは，あの時の革命は誰のため？）

(62-b) 白白干了五十年，一跤跌回解放前。 [Z-89-2]
（骨折り損の五十年，ちよいつまづきゃ解放前へ逆戻り。）

いっそのこと，共産党がない方がよいとする過激な謡や，共産党に対する不信を露にした謡もある。

(63) 没有共产党，中国不会亡；
离开党领导，人民生活好。 [Z-94-3]
（共産党がなかったら，中国は滅びはしない；
党の指導を離れたならば，人民は生活が向上する。）

(64) 提共产主义就冷笑，
提马列主义就讥笑，
提社会主义就失笑，
提为共产主义奋斗终身就哈哈大笑。 [Z-94-3]
（共産主義を口にすれば冷笑され，
マルクス・レーニン主義を口にすればあざ笑われ，
社会主義を口にすれば失笑を招き，
共産主義のために一生奮闘すると言えば大爆笑。）

以上の三つの謡は開放政策の初期，1980年代初めに流行ったものである。

朝令暮改の共産党の政策を次のように皮肉ったものもある。

(65) 共产党的政策像月亮，
初一十五不一样。 [J-89-2]
（共産党の政策はお月様のよう，
一日と十五日じゃ形が違う。）

この謡の後ろに，“说声变就变”（変えるの一声ですぐ変わる）という一句を付け足したヴァージョンもある（[J-88-2]）。

対台湾政策の豹変を風刺した謡もある。

(66) 六十年代用炮轰，
七十年代搞三通。

八十年代当祖宗， [J-88-2]
 （六十年代は大砲を撃ち，
 七十年代は「三通」政策，
 八十年代は下にもおかぬ。）

中国が台湾統治下の金門島や馬祖島への砲撃中止を発表したのは1979年1月1日のことである。また，“三通”とは，“通郵，通商，通航”（通信、通商、往来）の略称であり，1981年9月30日に，全国人民代表大会常務委員会委員長の葉劍英が新華社の記者に発表した談話の中で，台湾の平和的統一を実現する政策として語った言葉である。従って，1970年代に「三通」政策が実施されたとする上の謡の内容は歴史的事実と食い違っているが，台湾解放という敵対政策から台湾資本の積極的導入を目的とした優遇政策へと180度転換した事実を皮肉っている点は面白い。ことに，文革時に，台湾に親戚があるという理由のみで，迫害を受けた人々にしてみれば，政策の転換は歓迎すべきものであるにもかかわらず，複雑な想いがよぎるに違いない。”当祖宗”とは，「ご先祖様とみなして崇め奉る，ということ。なお，台湾側が中国の「三通」政策を公式に受け入れたのは，38年ぶりに戒嚴令を解除した1987年7月のことである。

諸物価の値上がりの続くなか，共産党の人気だけが落ち目である。

(67) 水涨价，电涨价，
 鸡涨价，鸭涨价，
 就是党票掉了价！
 发展你入党怕不怕？ [J-89-2]

（水道も値上がり，電気も値上がり，
 鶏肉も値上がり，家鴨の肉も値上がり，
 ただ党員証だけが値下がりだ！
 あなたの入党受け付けますが，どうします？）

“党票”は俗語で，中国共産党員の身分を指す。“票”は“期票”（約束手形）や“汇票”（為替手形）などに用いられる「手形」を意味し，出世のための党員の身分を手形にたとえた表現である。

4. 2 鄧小平への批判

鄧小平を批判したものは数多い。串田[1990]には次の謡が採録されている。

(68-a) 十億人民跟党走，
 党跟小平走，

小平跟着感觉走。

(十億の民は党について行く、

党は鄧小平について行く、

鄧小平は気の向くままに歩みます。)

この謡には、次のような類似のものがある。

(68-b) 全国跟着中央走、

中央跟着小平走、

小平跟着感觉走。 [J-89-6]

(国全体は党中央について行く、

党中央は鄧小平について行く、

鄧小平は気の向くままに歩みます。)

鄧小平を毛沢東と比較し、後者の方がよかったとする謡が幾つか存在する。開放政策の進展に伴うインフレの昂進と党幹部の腐敗が、その原因である。ただ、注意を要するのは、本当に毛沢東の方がよいと主張しているのではなく、鄧小平をこき下ろすための方便として、毛沢東をダシに使っている点である。

(69) 毛泽东南巡搞文革、

邓小平南巡搞抢劫。 [J-93-11]

(毛沢東は南方視察で文革をやったが、

鄧小平は南方視察で略奪を行う。)

毛沢東が南方講話で文革をやったとあるのは、1966年3月28日に杭州において、左派を支持しない北京市党委員会の彭真と呉晗及び中央宣伝部の陸定一を非難したこと、同年4月16日から24日にかけて、杭州で中共中央政治局常務委員会拡大会議を開催し、彭真問題を討議したことを指している。杭州における毛沢東の一連の行動は、文革発動のための前哨戦であった。

鄧小平の南方講話とは、1992年1月18日から2月21日にかけて、南部の諸都市を巡回視察した鄧小平が、改革開放をもっと大胆に押し進めるべきであると主張したことを指す。改革開放政策の加速化のために鄧小平が示した具体的な手法は、市場経済制度の積極的な導入と高度経済成長路線への転換であった。“搞抢劫”は比喩的な表現で、改革開放促進によりインフレが激化したり、腐敗現象が拡大したりして、庶民を大いに困らせている、ということ。

なお、鄧小平のこの談話は『鄧小平同志の武昌、深圳、珠海、上海などでの談話要点』(Ⓔ中共中央・1992年2号文書)として、県レベル以上の幹部に配布され、開放政策を進める上での、党幹部のバイブル的存在となっ

ている。

(70) 宁要毛泽东的工资, 不要邓小平的小康. [J-88-8]

(毛沢東の頃の賃金の方がまし,
鄧小平の言う小康状態など願ひ下げ。)

“小康”は「まずまずの生活」といった意味。1979年に訪中した故大平首相にに対して、鄧小平(当時副首相)が、西暦2000年に国民一人当たりのG N Pが当時の四倍近い1,000ドルくらいになり、中国は「小康」を得ることができるだろう、と発言したことから用いられるようになった言葉である(『最新中国情報辞典』pp.814-815)。皆が平等に貧しかった毛沢東の時代の方がましだ、としている。

(71) 毛泽东坏, 毛泽东坏, 毛泽东一块顶一块;

邓小平好, 邓小平好, 邓小平一块顶一角. [Z-94-3]

(毛沢東は悪い, 毛沢東は悪いが, 毛沢東の一元は一元の値打ち;
鄧小平は良い, 鄧小平は良いが, 鄧小平の一元は一角の値打ち。)

この謡は皮肉がよく利いている。毛沢東は悪かったと批判されるが、当時、物価は安定していた。それにひき比べ、鄧小平の開放政策はひどいインフレを招き、一元の値打ちが十分の一に減ってしまっているのではないか、という民衆の不満が読み取れる。

また、毛沢東と鄧小平の下で権力を振るった或いは振るっている幹部の体質についても、次のように謡っている。謡の出所は串田[1990]。

(72-a) 毛泽东的干部两袖清风,

华国锋的干部无影无踪,

邓小平的干部百万富翁.

(毛沢東の幹部はすかんびん,
華国鋒の幹部は煙の如し,
鄧小平の幹部は百万長者。)

“无影无踪”とは、短命に終わった華国鋒の側近たちは政治の表舞台から消えてしまったことを指している。

竹内[1994]には、次のような類似の謡が取り上げられている。

(72-b) 毛泽东的队伍两袖清风,

四人帮的队伍敢打敢冲,

华国锋的队伍无影无踪,

邓小平的队伍百万富翁.

(毛沢東の隊列 ふところスッカラカン,
四人組の隊列 猛烈果敢,

華国鋒の隊列 まるでアカン、

鄧小平の隊列 金が儲かり笑いが止まらない。――竹内訳)

鄧小平と周恩来を比較した謡もある。出所は串田[1990]。

(73)周总理像太阳，照到哪里哪里亮，

邓小平像月亮，初一、十五、不一样。

(周総理は太陽のよう、照らせばあまねく明るくなる、

鄧小平は月のよう、一日と十五日で形が違う。)

さらには、鄧小平や毛沢東などの息子を題材として、彼らの政治姿勢の違いを強調し、鄧小平批判の材料としている謡もある。

(74-a)毛泽东的儿子上前线，

刘少奇的儿子去支边，

周恩来没有儿子拼命干，

邓小平的儿子去募捐，

赵紫阳的儿子倒彩电，

胡耀邦的儿子不露面。 [J-89-6]

(毛沢東の息子は前線へ行った，

劉少奇の息子は下放した，

周恩来は息子はなかったが仕事を頑張った，

鄧小平の息子は募金活動をした，

趙紫陽の息子はカラーテレビの横流しをした，

胡耀邦の息子は表舞台に顔を出さない。)

毛沢東の長男の毛岸英は朝鮮戦争に参加し、戦死した。劉少奇の長男の劉源は、劉少奇が「走資実権派」として打倒されたため、河南省北部の新郷地区へ下放させられた。これに対して、鄧小平の長男の鄧撲芳は、中国身体障害者基金会の会長という立場を利用して、障害者救済事業の創設のための寄付金を募り、康華実業公司を創設し、その責任者におさまった。趙紫陽の長男の趙大軍はカラーテレビの横流しをして大儲けした。すなわち、毛沢東や劉少奇は立派な指導者であったし、周恩来自身も偉かったが、鄧小平や趙紫陽の息子は何をやっているのか、「親」が悪いからだ、と批判している。

串田[1990]には、これと類似の謡が取り上げられている。こちらの方がやや古いと思われる。

(74-b)毛泽东的儿子上前线，

周恩来的儿子拼命干，

赵紫阳的儿子倒彩电，

邓小平的儿子搞募捐。

（毛沢東の息子は前線へ行った、

周恩來の息子は必死に働いた、

趙紫陽の息子はカラーテレビの横流しをした、

鄧小平の息子は募金活動をした。）

周恩來には実子がないことから、息子は養子を指している。なお、李鵬は周恩來の養子の一人である。

竹内[1994]にも、(74-b)と同一の内容の謡が収録されている。

(74-c) 毛有子上前线、

周无子拼命干、

赵有子倒彩电、

邓有子搞募捐。

（毛さん 子供いた 前線にやる、

周さん 子供いない 骨身をけずる、

趙さん 子供いる カラーテレビで儲ける、

鄧さん 子供いる 寄付金集める。ー竹内訳）

4. 3 「人大」は飾りもの

共産党の支配が絶対的であり、日本の国会に相当する全国人民代表大会は単なる飾りものになってしまっている現状を嘲笑した謡もある。

(75) 啃啃鸡腿敬敬酒，开开大会举举手，

开完大会去春游，回去报喜不报忧。 [Z-94-3/J-93-11]

（鶏の脚かじり酒勧め、大会開き挙手をする、

大会終われば春の行楽、帰って行くと良いニュースだけ報告。）

(76) 党委挥手，政府动手，

人大举手，政协拍手。 [Z-94-3/J-93-11]

（党委員会は指揮を取り、政府は手を下す、

人民代表は手を挙げて、政治協商會議は拍手する。）

実権を持ち、指示をするのが共産党中央であり、その指示に従って、政策を実行するのが政府の役目である。人民代表大会や政治協商會議は党中央の決定事項に対して、賛成の挙手をしたり、拍手をしたりするだけの、何の権限もない、飾りものに過ぎない。

(77) 党管权，政府管钱，

人大管举手，政协管发言。 [J-88-6]

（党は権力を握り、政府は財政を握る、

人大は挙手を担当し、政協は演説を担当する。) この話では、政治協商会議は党中央の決定を支持し、賛美する発言を述べる機関に過ぎない、としている。

4. 4 太子党

“太子党”すなわち「高級幹部の子弟」の特権乱用に対する民衆の非難の声は大きい。

(78) 高干子弟五大步，人家下乡他入伍；
高干子弟复了员，摇身进了大学堂；
高干子弟门路阔，人家回城他出国；
高干子弟开公司，叔伯批条好走私；
高干子弟赚大钱，外汇存进洋银行；
赚足钱，再做官，继承父业拿大权！ [J-89-2]

(高級幹部の子弟には五つの出世コース、
人様が下放するのに奴は入隊；
高級幹部の子弟は復員すると、サッと大学に入り込む；
高級幹部の子弟はつてが多い、
人様が下放先から帰る頃には出国する；
高級幹部の子弟は会社を始める、
オジの指示書でヤミ取引が容易；
高級幹部の子弟は大儲け、外貨は外国の銀行に蓄える；
たっぷり稼いだら、官職について、父の跡継ぎ大権を握る！)

“人家”は一般庶民の子弟を指す。文革中の「下放運動」によって、都市の知識青年は農村へ追い立てられたが、高級幹部の子弟の多くは解放軍の参謀本部などに勤務し、都市を離れることがなかった。また、開放路線の下では、親の七光による特権行為が目にする。

中国共産党中央政治局は、1990年に中央規律検査委員会、中央弁公庁、中央組織部に対して、中央及び省・市・自治区の高級幹部及びその直系親族の政治、経済、工作状況を、合同で調査するよう指示した(蕭[1991]p. 23)。調査結果によると、600人余りの中央の”部長”級以上の幹部について、870余人の子女或いは直系親族が公費で欧米等の各国へ留学または研修で出国しており、320人の子女或いは直系親族が欧米等の大使館、領事館、経済・商業機構及び香港・マカオの新華社、中国資本の機関に勤務している。1,100人余りの省・市・自治区レベルの高級幹部については、子女或いは直系親族の420人が公費で欧米等に留学・研修で出国しており、700人近

くが欧・米・日・豪の大使館、領事館、商業機構または香港・マカオで勤務している。また、1,700余人の中央及び省レベルの高級幹部の子女或いは直系親族の3,100余人が国内で司・局長級或いは師団長級以上の職位についており、900人余りが経済特区で対外貿易会社の社長或いは役員をしている。

5. その他の社会現象

5. 1 一人っ子政策

いわゆる「一人っ子政策」が始まったのは、1979年1月に全国計画出産弁公室主任会議が開催され、全国レベルでの一人っ子政策の基本路線が検討された時点である。一人っ子政策の具体的な規定は省レベルの実態に即した条例によって定められている。1984年には第二子出産条件が大幅に緩和されたため、農村では基本的に第一子が女兒の場合、第二子の出産が許されているが、都市においては、原則として全国的に一人っ子政策が実施されている⁽¹⁹⁹⁾。

次の謡には、第二子以降を生むことに対する非情な政策がよく反映されている。

(79)一胎保，二胎刮，三胎扎。 [J-92-2]

（一人目は大切に，二人目は掻き出し，

三人目は出来ないように結紮する。）

“刮”は胎児を搔爬し，人工中絶すること，“扎”は避妊の手段として，輸精管或いは輸卵管を縛ることである。

(80)保好老大，不要老二，消灭小三。 [J-92-2]

（一人目は大切だ，二人目は要らない，三人目は葬りされ。）

次の謡は，例え避妊に失敗し，自殺を図る者がいようと，留め立てする必要はない，という恐ろしい内容である。

(81)上吊不夺绳，喝药不夺瓶，

一定要把计划生育搞上去。 [J-92-2]

（首を吊る奴の繩を奪うな，服毒自殺をする奴の瓶を奪うな，

必ずや計画出産を遂行しよう。）

また，二人目以降の子に対して課せられる罰金について，次のような謡がある。

(82)超生罚款，起点两千，上不封顶。 [J-92-2]

（超過出産の罰金は，最低が二千元で青天井。）

一人っ子政策は、計画外出産による“黒孩子”（戸籍のない子供）、男尊女卑の思想による女兒の間引きや捨て子、といった深刻な問題を引き起こしている。1990年の人口センサスによって、1982年から同年の間に1,513万人の“黒孩子”が誕生していることが判明した。若林[1994a]は、現実にはこの数値を上回る“黒孩子”が存在する、と主張している。

民生部が1991年10月に國務院へ提出した報告書によると、全国の大中都市では毎年15万人の嬰兒が捨てられており、その多くは女兒或いは第二子、第三子である（宮[1992]p.15）。また、農村においては、家族計画担当者と農民との間に流血事件が発生することも珍しくない（朱[1991a]p.86）。

5. 2 冷遇される知識人

文革中、インテリは“臭老九”（九番目の鼻つまみ者）として冷遇された。現在に至っても、知識人軽視の風潮は残っている。“脳体倒挂”（頭脳労働者の収入より肉体労働者の収入の方が良い）という言い回しの存在が、この事実を端的に示してくれる。

冷遇されている知識人の中でも教員は特にひどい。“三低”（給料が低い、福利厚生などの待遇が悪い、社会的地位が低い）という言葉で象徴される教員の生活は最低である。そのため、他の職業に転じていく教員が後を絶たない上、教員志望の若者がいない⁽¹⁴⁾。目下のところ、北京市では小中学校の教員の欠員が三万人にものぼるといわれている。国家教育委員会が1990年10月に北京、上海、天津で実施した調査によると、これらの地区の教師の欠員率が33%にも達することが判明した（何[1990]p.17）。

1985年1月の全国人民代表大会常務委員会において、毎年9月10日を「教師の日」（“教师节”）とすることが決定された。わざわざ、教師を尊敬しましょう、という日を設けなければならないところに問題がある。「教育の日」ではなく、「教師の日」である点が妙に白々しい。

(83) 远看像个逃难的，近看像个讨饭的，

叫住仔细一盘问，原来是村上教书的。 [Z-94-3]

（遠くから見ると難民のよう。近くで見ると乞食のよう、
呼び止め子細に尋ねれば、なんと村の先生だった。）

(84) 教书不如卖书，

学者不如杀猪；

手术刀不如剃头刀，

钻业务不如开面铺。 [J-89-2]

（教員より本屋の方がまし、

学者より肉屋の方がまし；

外科医より散髪屋の方がまし，

学問を研鑽するよりうどん屋を開く方がましだ。）

“卖书”は道端の露店で本や雑誌の類を売ることである。

国家教育委員会によると、1992年に全国の九つの省・自治区の82の県及び15の中小都市において、一万校近い小中学校、中等技術学校の教職員に給料が支払われなかった。その総額は三億五千万円余りに達する。同年に、800回余りの教職員集会や請願行動がとられ、30数人の教職員が生活苦が原因で自殺、15万人近い小中学校教員が離職した。給料未払いの原因は、大部分の県政府が元々少ない教育費をビル建設や乗用車の購入や「視察」旅行に流用したためである（游子[1993]p.24）。

また、国家教育委員会の統計によると、1993年11月現在で全国の教師の給料未払い総額は六億元余りに達しているが、実際の未払い額はこれより多い（汪[1994a]p.70）。楠[1994]は、1993年上半期の未払い総額は19億元を超えた（p.6）、としている。

教員のみならず、教育部門の幹部も他の部門の幹部より待遇が悪い。

(85) 党工干部铁饭碗，

企业干部口袋满，

科技干部填饱肚，

教育干部喝凉水。 [Z-94-3]

(党工作の幹部は親方日の丸，

企業の幹部はポケットに金がいっぱい，

科学技術部門の幹部はご馳走で満腹，

教育部門の幹部は湯冷ましを飲む。)

“铁饭碗”は食いはぐれない職業を指し、「親方五星紅旗」とでも言えよう。他の部門の幹部と比較すれば、教育部門の幹部は実入りがなく貧相に見えるが、それでも現場の教員からみれば羨ましい限りの存在である。

一流の学者であろうとも、その待遇は非常に悪い。

(86-a) 原子彈不如茶叶蛋。 [J-88-6]

(原子物理学者よりゆで卵売りの方がましだ。)

この謡は、原子爆弾の研究に携わっているような物理学者の収入よりも、道端の屋台でゆで卵を売っているオバサンの収入の方が多いことを強調している。この謡は相当流行ったようで、類似のものが多い。

(86-b) 搞原子彈不如卖茶叶蛋。 [Z-92-9]

(86-c) 造原子彈不如造茶叶蛋。 [J-94-2]

(86-d) 造原子弾の不如卖茶叶蛋的。 [Z-92-12]

(86-e) 造原子弾の干脆卖茶叶蛋。 [Z-92-12]

(原爆を造るより、いっそのことゆで卵売りをした方がいい。)

(84)の第三句に語われている内容も、外科医の収入よりも散髪屋の収入の方が多いいことを皮肉っている。この第三句はこれだけで独立して用いられる場合もある([J-88-6])。次の語も同様な内容のものである。

(87) 脳内科不如脳外科。 [J-88-6]

(医者より散髪屋の方がました。)

ここでは、“脳外科”は脳外科ではなく、散髪屋という意味で用いられている。“脳内科”は医者を指している。なお、文革中は教員と並んで貧乏人の代名詞であった医者は、近年に至って余録のある職業に昇格したようである。(8-a)、(8-c)参照)

5. 3. 国営企業の危機

国営企業の体質改善のため、企業長経営請負制が導入され、1987年末までには大中規模の国営企業のほとんどがこの制度へ移行したことから、近年は「国営」企業ではなく、「国有」企業と称することが多いが、本論では両者を同義語として扱う。なお、国営企業の最も基本的な組織形態は“工場”(工場)であるため(小宮[1989]p.66)、上述の企業長経営請負制は工場長経営請負制と呼ばれることが多い。

国営企業の生産高は、かつては全国の工業総生産高の八割を占めていたが、1992年にはついに五割の大台を割ってしまった。国営企業の経営は悪化の一途を辿っており、1994年に入って倒産する企業が激増している。

国家経済貿易委員会の陳清泰副主任によると、赤字の国有企業は全体の約40%に達しており、地方によっては、政府への抗議行動をとるなどの不安定な動きも出ている(1994年10月30日付『朝日新聞』)。しかし、陳副主任の40%は、あくまで公式見解であり、泓[1994a]によると、1988年以前は赤字の国有企業は10%前後で推移していたが、潜在的な赤字企業も含めると、現在では全体の三分の二以上にもなり、専門家の中には赤字企業は80%で、やや黒字が20%と断言する者もあるという。

斜陽の国営企業は、工場長から一般従業員に至るまで、モラルの低下が著しい。

(88-a) 书记谈理想，厂长望下乡，

工人白相相，干活靠阿乡。 [J-88-7]

(書記様は理想を語り、工場長は田舎へ行きたがり、

工員は遊んでばかり、仕事は出稼ぎ農民に頼ってる。) 大規模な工場は通常多数の郷鎮企業を協力企業・関連企業として抱えており、そうしたコネにより、四季を通じて副食品等の提供がある。そのことが工場長をして、「望乡下」させるのである。「白相」は上海方言で、「遊ぶ」という意味、「阿乡」は田舎からの出稼ぎ農民のことである。この謡には類似のものもある。

(88-b) 厂长靠横向,

做工靠阿乡自己白相相。 [J-88-8]

(工場長は関連企業を当てにし、

工員は出稼ぎ農民に頼り自分たちは遊んでいる。)

“靠横向”は協力企業・関連企業に頼ること。

1990年代に入ると、さらに国営企業のトップから従業員に至る全体のモラルの低下が甚だしく、半ば公然と原料・製品・設備などを盗み出す輩が続出し、いわゆる“内盗”(内なる盗賊=従業員による工場設備・原料などの窃盗、横流し)が大きな社会問題となっている。こうしたモラルの低下が国営企業の衰退に一層の拍車をかけている。

(89) 干部捞, 班长肥, 三千职工三千贼, [J-94-7]

(幹部がかすめ取り、班長は肥え太り、

三千人の従業員の三千人が泥棒。)

鉄道関係者のモラルも同様に低下している。

(90) 职工倒烟, 车长倒票, 段长倒人, [J-93-8]

(従業員はタバコの横流し、列車長は切符の横流し、

管区長は気ままな人事。)

“段长”(管区長)は“科长”級に相当する地位。タバコは政府専売品であり、厳しい統制下におかれているが、横流し事件が後を絶たない。

5. 4 治安の悪化

羅・黎[1992]によると、國務院の1106号最高機密文書『全国(台湾省を除く)三十の省、自治区、直轄市の政治、経済、社会、文化概況の集約と分析』には、次のような事実が記されている。すなわち、全国の政治、社会状況の安定度を四つのレベルに分けた場合、「不安定」と「やや不安定」に該当する地域は十四の省、自治区、直轄市で、その総面積は国土の60%以上を占める(p.8)。

承[1993]によると、1990年以降、全国各地で列車強盗事件或いは長距離バス、トラックなどを襲う路上強盗事件が多発するようになり、当局は頭

を痛めている。例えば、江西省では1994年4月の一カ月間だけをとっても、検挙された路上強奪事件200件、逮捕者512人に上っている。広西省では1994年3月～5月にかけて、検挙された鉄道・路上強奪事件1,100件、逮捕された強盗団269組織、逮捕者1,241人にも上る。公安の調べでは、犯人は九割が鉄道・道路沿線にすむ普通の農民で、前科のある者或いは労働改造所を出所した者は僅かに過ぎない。

(91) 要想富，吃铁路；

要想富，上公路；

得来全不费工夫，一夜就成万元户；

爬汽车、割篷布，一二次，就致富。 [J-93-8]

(金持ちになりたいなら、鉄道を食い物に；

金持ちになりたいなら、国道へ行け；

獲物は全く骨折り不要，一夜で成れる万元戸；

トラックによじ登り幌を引き裂く，一二度やれば大金持ちよ。)

鉄道公安部門の発表によると、目下十五の危険路線があり、特に成昆（成都－昆明）、広成（広州－成都）、貴昆（貴陽－昆明）、蘭新（蘭州－新疆）などの路線は非常に危険である。1993年に鉄道で発生した強奪事件は3,200件で、被害総額は二億六千萬元余りに達する。（曹[1994]p.25）

1994年3月31日に、台湾の旅行団24人全員が、浙江省千島湖の遊覧船の中で惨殺された事件は台中關係に大きな影を落としている。台湾観光局は、大陸の観光地点の安全性或いはそこに至る路線の安全性等の七項目について調査し、「大陸観光地危険度一覧表」を作成し、危険な地域へ行かないようにと、旅行者の注意を喚起している。当該一覧表によると、治安面でのワースト5は、①千島湖、②桂林、③ラサ、④黄果樹瀑布、⑤九寨溝である。

5. 5 古墳の盗掘

1987年に湖北省秭帰県の屈原博物館から盗み出された国宝級の、戦国時代の銅製の器（“敦”）が、ニューヨークのサザビーズ（Sotheby's: オークション会社）の目録に掲載された。この場合は、幸いなことに中国政府によって、オークションにかけられる寸前に取り戻された。警戒が極めて厳重な故宮博物館でさえ、過去三回盗難に遭っており、地方の博物館などの文化財盗難の被害は数知れない。

古墳の盗掘と盗掘された文化財の海外流出も大きな問題となっている。江西省では、1981年から古墳の盗掘が始まり、1983年には同省豊城県で千

人余りが盗掘に加わり、宋代の古墳967基を掘り返し、三千点余りの文物を盗み去った。1984年以来、江西省だけでも一万基余りの古墳が盗掘に遭っている。盗掘者の大半は農民である。

(92) 若要富，上山挖古墓，一夜成为万元户。 [J-89-10]

(財を成したきゃ、山に登って古墳を暴け、一夜で成れる万元戸。)

(93) 上有天堂，下有地堂。 [J-89-10]

(上には天国，下には古墳。)

この流行り謡は，“上有天堂，下有苏杭。”（上には天国，地上には蘇州・杭州がある。）という言い回しをもじったものである。

5. 6 女性の性の商品化

第三章の第三節では、役人への賄賂がタバコや酒から女性の提供にまでエスカレートしている事実を明らかにしたが、次の謡は女性の性の商品化現象を露骨に揶揄している。

(94) 身上带着扁扁货，
走遍天下不挨饿。 [J-93-11]

(体に「あそこ」が付いてさえおれば、
世の中どこへ行こうと飢え知らず。)

“扁扁货”は女性の性器を指す。売春は“六害”の一つとして⁽¹⁵⁾、大きな社会問題となっており、1981年～1991年7月までに、延べ58万人の売春法規違反者が検挙された(若林[1994a]p.164)。温[1994]には、娼婦の値段からぼん引きの手数料まで記されている。また、女性の誘拐事件も多発しており、三～四千円で売買されているとのこと。

広東省公安関係者によると、1991年に同省において、ホテル、ダンスホール、バー、カラオケ店、美容院、エステセンター、レストランなどの12,350カ所の売春や猥褻行為の拠点が捜査を受け、878の売春グループと4,300人余りの構成員が検挙され、9万人余りの省外出身者が売買春のかどで摘発された(安[1992]p.92)。

若林[1994a]によると、1991年と1992年の二年間で44,000人の女性が人身売買から救出されたというが、これは氷山の一角に過ぎない。四川、雲南などの内陸部から若い女性が一人約2,500元(2,000～4,500元とも)ほどの相場で買われて、売春宿へ、もしくは嫁不足の沿岸華北東南の農村へ売られていくという(p.105)。

国務院新聞弁公室秘書長の喻権域は、共産黨員の中には売春宿(“妓院”)を開設し、赤線地区(“红灯区”)を設置することを公に主張する者が

いるが、今後そのような発言をする者は党籍を剥奪すべきである、と語った（汪[1994b]p.82）^{〔16〕}。

5. 7 マスコミ界の腐敗

「有償報道」=提灯記事が目にする社会現象となっている点についてはすでに述べたが、贈賄を拒否する企業に対しては紙面を利用して営業妨害に及ぶ等、新聞記者のモラルの低下は如何ともし難い状況にまで陥っている。一例を挙げると、八千元の「お手当」の支払いを拒否した天津花旗会社が、商品の品質が劣っていると書き立てられ、販売量が激減し、八千万元相当の滞貨を抱えた事件は、「花旗果茶事件」として北京、天津両市民を驚かせた（李[1993]p.63）。この結果、各企業は新聞記者のご機嫌を損ねてはいけないという教訓を学んだ、とされている。

(95) 工商税务两只狗，

外加记者一只手。 [J-93-9]

(商工業管理局と税務署は二匹のイヌで、
さらに加わる記者の手が一本。)

(96) 一等记者炒股票，

二等记者拉广告，

三等记者要红包，

四等记者会上泡，

五等记者写报导。 [Z-94-8]

(一番手の記者は株で大儲け、
二番手の記者は広告費で稼ぎ、
三番手の記者は祝儀をせびり、
四番手の記者は会議で飲み食い、
五番手の記者は記事を書く。)

年収が一万元を超える者もあり、記者はたいそう羽振りがいいが、李[1993]によると、手っとり早い成金への道は次の通りである。

①報道発表会の主催： 都市での市場参入をめざす郷鎮企業を集め、宴会を伴う発表会を開き、一企業から二～三万元徴収する。

②有償報道： 提灯記事（実質は広告）は高く、長いもので一万元、一面記事であれば六万元。

③広告・賛助金の獲得： 集めた広告費・賛助金の5～10%を歩合として受け取る。

世間を震撼させた「長城機電公司事件」の際にも、買収された大新聞の

記者が詐欺の片棒を担いだ。これは、長城機電科技産業公司の沈太福社長がわずか数カ月の間に二十数万人の投資者を騙し、十億元近い金を詐取した事件である(17)。そのため、この事件が明るみに出たあと、1993年8月4日、丁関根・中央宣伝部長は主要メディアの責任者を召集し、有償報道は不正・腐敗の反映である、と強く批判し、中央宣伝部と新聞出版署が連名で『報道隊列の職業道徳建設強化と「有償報道」禁止に関する通知』を発表した(李[1993]p.64)。

ところが、規制が厳しくなると、今度は企業と記者との間を取り持つ“新聞掮客”(報道ブローカー)なる新商売が誕生する始末で、マスコミ界の腐敗の根絶は望み薄である。

従来、政府のお先棒を担ぐ報道に終始していた官製マスコミ界であったが、ここに至って全面的に国民の信用を失った。その実態を揶揄した謡を一つ紹介しておこう。出所は串田[1990]。

(97) 人民日报, 胡说八道;
光明日报, 并不光明;
北京日报, 胡篇乱造;
中央电台, 颠倒黑白。
(人民日报, でたらめばかり;
光明日報, 決して公明でない;
北京日報, うそっぱちばかり;
中央放送局, 真偽を転倒。)

“中央电台”は“中央人民广播电台”のことである。

5. 8 物価の上昇

権力や人間関係やスローガンといったものは、右に揺れたり左に揺れたり、水平的な変化を繰り返すが、物価ばかりは右肩上がり一直線である。次の謡はそれらの点を全て“～来～去”で表現しているところが面白い。

(98) 权力, 转来转去。
关系, 换来换去。
口号, 变来变去。
价格, 提来提去。 [J-88-8]
(権力は、次から次へと移っていく。
コネは、次から次へと換わっていく。
スローガンは、次から次へと変わっていく。
なのに物価は、どんどん上がるばかり。)

1988年5月の狂乱物価の引き金となったのは、豚肉、鶏卵、野菜、砂糖の四種類の副食品の統制解除であった。自由価格となった途端、北京ではこれらの価格がたちまち二倍に跳ね上がった（齊[1988]p.53）。また、高度成長に伴い、1993年下半期からインフレが昂進し始め、同年の全国小売り物価は13%上昇、1994年に入ってもその勢いは衰えず、同年上半期の全国小売り物価は19.8%の上昇を示している（余[1994]p.14）。生活必需品の上昇幅が大きいのが目につく。

1994年の夏は高温続きであったせいもあり、八月下旬に野菜の価格が異常に高騰した。北京では8月24日に一斤二元五角であった香菜が翌日には十元に、上海では同月下旬のある日、四角の間引き菜が一元二角から二元にまで値上がりした。品不足もあるが、生産者である農民と消費者との間に数多くのブローカーが介在するため、異常な高騰を招いていると考えられ、次の謡はその点を指摘している。

(99)菜園子、菜篮子、中間隔着十万菜贩子。 [J-94-10]

(野菜畑と買い物かご、その間には十万の野菜売り。)

6. 結び

中国共産党の腐敗は、なにも開放路線になってから始まったわけではない。1951年10月の人民政協会議第三回全国委員会は、党、政府、軍の汚職、浪費、官僚主義の三つに反対する綱紀肅正運動を展開することを決定し、同年12月から翌年6月にかけて全国規模で大々的に反対運動が推進された。これがいわゆる“三反”運動である。また、“三反”運動と同時に展開された“五反”運動は、増収賄、脱税、国有資材の横領、仕事の手抜き及び資材のごまかし、国家経済情報の盗洩に反対し、商工業界に対してその是正を求める肅正運動であった。

船橋[1983]は、共産党の腐敗について、次のように述べている。

マスコミ界の重鎮が「あの清朝でさえ、最初の八十年間は腐敗しなかった。それなのに共産党はわずか三十年でこんなにも腐敗してしまった」と嘆くのを聞いた。理想主義を掲げた清末の太平天国の乱と明末の李自成の農民蜂起がいずれも失敗した基本的原因は、その指導集団が政権奪取後みるみるうちに腐敗、変質したことである。その故事の轍を「中国共産党が踏まないという保証はない」（81年3月16日付人民日報）との警告まで聞かれる。（p.89）

開放初期の1980年代初めにすでにこうした嘆きが聞かれていたわけであるが、その後の十年余りの開放政策がもたらした中国共産党の腐敗・墮落はまさに驚嘆に値する。中国最後の王朝とも称せられる共産党政権は、最後の皇帝・鄧小平の死を迎え、過去の王朝同様に崩壊の道を歩みつつあるようにも感じられる。

矢吹晋・横浜市立大学教授は、中国の高度成長は今後十年間は持続するし、その確率は70%である、と鄧小平なきあとの中国経済を予測している。

また、米国防総省は、1995年1月13日に「近い将来の中国」と題する研究報告を公表したが、その中で鄧小平死去後の中国情勢を次のように分析している(1995)。①鄧死去後に強力な一人の指導者は現れず、集団指導体制となる。②経済改革路線が変更される可能性はほとんどない。③過渡期(七年：筆者加注)の後に、ソ連邦が崩壊したような形で中国が崩壊する可能性は五分五分である。

とすると、本論で取り上げた、鄧小平政権下における様々な社会的矛盾も、ポスト鄧小平政権にそのまま引き継がれることになる。果たして中国がいつまでこうした問題を抱えたまま進んで行くことができるか、非常に興味をそそられる。

歴史を振り返ってみると、中国では開放政策が採られるようになって以来、1982年、1986年、1989年、1993年と、数年おきに反腐敗闘争が展開されてきたが、腐敗現象を根絶することはできなかった。その最大の原因は、腐敗の当事者たる役人の“不可不反，不可真反，不可大反”（反腐敗闘争はやらないわけにはいかないが、本気でやっちはいけないし、大々的にやっちはいけない）といった、消極的な姿勢にある。

そしてこの間に、腐敗現象は次のような形のものへと変貌していった。第一に、当初の「金」を管理する部門から、「物」や「人」を管理する部門、特に「法」を管轄する部門にまで拡大した。第二に、当初、受け身的に賄賂を受け取っていたものが、強権をかざして賄賂を強要するようになった。第三に、公費による飲み食いや観光旅行から、公費によるダンス・パーティや性的サービスの享受にまでエスカレートした。第四に、取賄手口が巧妙化し、賄賂額が増大した。役人の腐敗現象がこれほどまで社会に蔓延していることから、これをテーマとした流行り語が群を抜いて多いのは当然の帰結である。

社会主義中国においては、抗議デモに参加したり、マスコミに意見を発表したりして、党や政府を批判することは生命の危険を伴う行為である。そうしたリスクを犯すことなく、腹中のうっ積した不満を吐露する手段と

して流行り謡が存在するわけである。流行り謡は、まさに民衆の生活の智慧の結晶とでもいうべきものであり、作者不詳の口頭文学作品として評価できる。

流行り謡は深刻な社会的矛盾を告発し、謡いあげているにもかかわらず、一方では、辛口のユーモアも楽しめるものとして仕上がっており、庶民のうつぶん晴らしには格好の材料を提供していると言えよう。

(100) 不説白不説，說了也白説，白説还得説！ [Z-89-2]

(言わなきゃ損，言っても無駄，それでもやっぱり言わなくっちゃ！)
まさに、その通りなのである。

筆者は留学生教育に携わる者の一人として、日頃より「なぜ大量の中国人留学生がやって来るのか。そして、なぜ彼らの多くは帰国しながらないのか」という素朴な疑問を抱いている。こうした疑問に対する一応の解答としては、①共産党への不信感、②中国との所得格差、の二つが考えられるが、日本のマスコミ報道からは、彼らをして帰国を忌避させるほどの「醜悪な」中国社会の現状を見きわめることは難しい。そこで、この小論では、中国の民衆の間で口ずさまれる「流行り謡」を切り口として、中国社会の現状をつまびらかに検証することを試みた。

【注】

- (12) “武警”，すなわち“武装警察”は、1983年に成立した“中国人民武装警察部队”の略称で、「解放軍のうち、党・政府機関とその他重要部門の警備を任務としてきた部隊と、公安部門所属の武装民警・国境警備民警・消防を統合したもの」（『最新中国情報辞典』p.783）である。なお、國務院内部統計資料によると、全国に警官は230万人、“武警”は120万人（うち40万人は予備役）いる（錢[1991]p.28）。
- (13) 地域別の政策の詳細については若林[1994b]p.174の表2参照。
- (14) 北京、上海等の大学三、四年生を対象にした進路希望調査では、第一位が「留学」で、最下位（第十二位）が「中学教員」であった（石川[1993]p.23。なお、原載は『教育与職業』1989年2月）。
- (15) 「六害」とは、1989年に一掃すべき社会病理現象として提起された犯罪行為で、売春、賭博、ポルノ、人身売買、麻薬、迷信をいう。
- (16) これは1994年夏頃の発言と推測される。原載は『華商時報』。
- (17) 沈太福は、1994年3月4日、北京市中級人民裁判所で死刑の判決を、事件に関与した国家科学技術委員会副主任李效時は懲役二十年の判決を受けた（林[1994]p.41）。また、沈に買収され提灯記事を書いた、雑

誌『長城内外』の編集者・蔡原江及び『科技日報』の記者・孫樹興は各々懲役六年と七年の判決を受けたが、それ以外に事件にかかわっていたと推測される『人民日報』や『中国青年報』の記者については、後ろだてが強力なせいも、厳しい処置が取られていない（承[1994b] p.67）。

- (18)この研究報告は、国防次官（政策担当）の委託に基づいて、ロナルド・モース・メリーランド大学教授を座長とし、国防総省、大学教授、議会調査局の研究者らで構成する研究グループが、1994年8月1日から10日にかけて討議した結果をまとめたものである（『世界週報』1995.2.28., p.61）。

【付記】

本文中の各流行り謡の出所は一部を除き末尾の[]内に示した。例えば、[J-93-10]は『九十年代』1993年10月号、[Z-94-3]は『争鳴』1994年3月号。

【引用文献】

- 姪蘭[1991]「喝酒喝出革命烈士」『九十年代』1991年12月号、46-47。
 阿林[1994]「北京搶挖教師出奇招」『九十年代』1994年7月号、12。
 安元福[1992]「広東省清除近两千犯罪团伙」『争鳴』1992年4月号、92。
 晚君[1994]「從民謡看民心民情民意民怨」『争鳴』1994年8月号、78-79。
 陳一戈[1988a]「現実点、多掙点」『九十年代』1988年2月号、54-58。
 一一一[1988b]「牢騷滿腹、危機四伏」『九十年代』1988年7月号、44-45。
 陳小川[1992]「殺氣騰騰的標語」『九十年代』1992年2月号、98。
 中国社会科学院語言研究所詞典編輯室（編）[1979]『現代漢語詞典』商務印書館亦兵[1994]「從一首民謡看大陸社会」『鏡報』1994年7月号、44-47。
 船橋洋一[1983]『内部 - ある中国報告』朝日新聞社
 石川啓二[1993]「中国大陸の文革後の留学生政策の推移」『アジア文化』No.18、12-23。
 常歌[1993]「大貶値、大拍売及其他」『九十年代』1993年4月号、55。
 何立[1990]「大陸教師仍「三低」」『争鳴』1990年12月号、17。
 華連文[1993]「「問題出在農業上」-鄧小平的驚呼」『九十年代』1993年4月号、49-51。
 小宮隆太郎[1989]『現代中国經濟-日中の比較考察』東京大学出版会

- 泓昶[1994a]「「公司化」要砍断政企的父子關係」『鏡報』1994年7月号，40-42。
- [1994b]「中共反腐新動向」『鏡報』1994年9月号，36-37。
- 串田久治[1990]『天安門落書』講談社
- 九十年代編集部[1994]「色相賄賂面面觀（『特区党的生活』よりのダイジェスト）」『九十年代』1994年3月号，60-62。
- 宮燕[1992]「文件承認全国童工四百万」『争鳴』1992年1月号，15-16。
- 明華[1988]「民謡什錦小拚盤」『九十年代』1988年8月号，63。
- [1994]「小百姓再哭菜藍子」『九十年代』1994年10月号，64-65。
- 三菱総合研究所（編）[1987]『中国情報ハンドブック』蒼蒼社
- [1992]『中国情報人物事典』蒼蒼社
- [1994]『中国情報ハンドブック（1994年版）』蒼蒼社
- 木然[1994]「大陸腐敗更隱蔽—粵瓊採取新措施」『鏡報』1994年10月号，37-39。
- 楠石因[1994]「中共高層調整失衡架構·江李再定中国教育藍圖」『広角鏡』1994年7月号，6-10。
- 野上正[1985]『時事中国ハンドブック』東方書店
- 温故[1994]「黒道価格在中国」『争鳴』1994年9月号，34-35。
- 王萌[1994]「從大陸順口溜說起」『争鳴』1994年3月号，54-55。
- 王海倫[1989]「口頭文学熱与全民牢騷潮」『九十年代』1989年2月号，62-64。
- 王存理·王道[1993]「内部材料：个体經濟從頂峰滑落」『九十年代』1993年6月号，32-35。
- 汪希祐[1992a]「北京檔案」『九十年代』1992年2月号，74-75。
- [1992b]「北京檔案」『九十年代』1992年11月号，82-83。
- [1994a]「北京檔案」『九十年代』1994年2月号，70-70。
- [1994b]「北京檔案」『九十年代』1994年10月号，82-83。
- 羅冰·黎自京[1992]「絕密文件中的不穩地区」『争鳴』1992年1月号，8-9。
- 李子荣[1993]「「無冕之王」桂冠落地」『九十年代』1993年9月号，62-64。
- 陸農[1994]「農村不穩狀況惡化」『争鳴』1994年8月号，28-29。
- 林衛[1994]「反腐败的過場戲」『九十年代』1994年4月号，40-41。
- 沙田[1990]「学雷锋？雷鋒是甚麼？」『九十年代』1990年4月号，62-63。
- 齊辛[1988]「塩都壳到gān 多錢！」『九十年代』1988年8月号，52-55。
- 世界週報編集部（訳）「鄧死去後の中国情勢の分析報告書（上）」『世界

- 週報』1995年2月28日号，pp.61-66.
- 施叔青[1989]「超級瘟疫：瘋狂的盜墓者」『九十年代』81-83.
- 申明園[1993]「「白條子」激起農民義憤」『争鳴』1993年2月号，26-27.
- 晨晁晨[1993]「中国特色的集團消費」『争鳴』1993年6月号，30-31.
- 湘夫[1988]「大陸新民謡兩則」『九十年代』1988年2月号，63.
- 小林[1988]「大陸新民謡兩則」『九十年代』1988年7月号，48.
- 承嬰[1988]「改革与民生：怎一個愁字了得」『九十年代』1988年6月号，38-41.
- [1989]「五月杭城觀民情—学潮側記」『九十年代』1989年6月号，71-73.
- [1990]「大陸奇聞錄五則」『九十年代』1990年7月号，90-91.
- [1993]「大動脈血跡斑斑—車匪路霸事件觸目驚心」『九十年代』1993年8月号，62-64.
- [1994a]「內盜：对国营企業的最後一擊」『九十年代』1994年7月号，54-56.
- [1994b]「大陸新聞界在市場化与控制中徘徊」『九十年代』1994年11月号，66-69.
- 商務印書館・小学館（編）[1992]『中日辞典』小学館
- 蕭統[1991]对高幹子女的調查報告」『争鳴』1991年2月号，23.
- 朱曉陽[1991a]「生育（「中国人—奔向天堂」之一）」『九十年代』1991年3月号，81-89.
- [1991b]「中国人—奔向天堂 第三部：城市住房」『九十年代』1991年5月号，96-107.
- 曹番[1994]「大陸火車十五條危險線」『争鳴』1994年5月号，25.
- 竹内実[1994]『新編・中国を読むキーワード』蒼蒼社
- 達実華[1991]「大陸高等院校危機重重」『九十年代』1991年8月号，33-35.
- 童顏怡[1988]「北京：無尽的憂慮」『九十年代』1988年6月号，35-37.
- 藤堂明保ほか（編）[1985]『最新中国情報辞典』小学館
- 唐明施[1994]「千島湖慘案震撼兩岸關係」『九十年代』1994年5月号，62-64.
- 宇野和夫[1994]「治安・犯罪」『中国年鑑（1994年版）』中国研究所（編）大修館書店，178-179.
- 若林敬子[1994a]『中国 人口超大国のゆくえ』岩波書店
- [1994b]「人口問題」『中国年鑑（1994年版）』中国研究所（編）大修館書店，174-175.

- 矢吹晋[1991]『ペキノロジー [世紀末中国事情]』蒼蒼社
—— [1994]『図説・中国の経済』（増補改訂版）蒼蒼社
余集聞[1988]「肝炎驚魂・中国与香港」『九十年代』1988年4月号，26-27.
余又光[1994]「中国通貨膨脹能控制住嗎？」『広角鏡』No.263，14-17.
楊知著[1993a]「烏龜王八下台去，毒蛇猛獸上台来—大陸民謡对政治生活的
諷喻」『九十年代』1993年10月号，34-37.
—— [1993b]「毛沢東南巡搞文革，鄧小平南巡搞搶劫—大陸民謡对政治
生活的諷喻（下）」『九十年代』1993年11月号，21-23.
俞風[1994]「内蒙大事件—四千幹部鬧事」『争鳴』1994年6月号，24-25.
游子[1993]「上万学校欠發工資」『争鳴』1993年5月号，24.